

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月12日
【四半期会計期間】	第28期第3四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	日本和装ホールディングス株式会社
【英訳名】	NIHONWASOU HOLDINGS, INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉田 重久
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号
【電話番号】	03 - 3216 - 0070（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 菅野 泰弘
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号
【電話番号】	03 - 3216 - 0070（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 菅野 泰弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第27期 第3四半期連結 累計期間	第28期 第3四半期連結 累計期間	第27期
会計期間	自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日
売上高(千円)	4,124,140	4,309,113	5,467,015
経常利益又は経常損失( ) (千円)	306,333	54,139	327,679
四半期純利益又は四半期(当期)純 損失( ) (千円)	197,072	23,885	233,875
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	196,845	20,550	236,076
純資産額(千円)	2,690,104	2,671,815	2,651,640
総資産額(千円)	5,566,252	7,410,000	5,442,006
1株当たり四半期純利益金額又は四 半期(当期)純損失金額( ) (円)	21.89	2.65	25.98
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	48.3	36.0	48.7

回次	第27期 第3四半期連結 会計期間	第28期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純損失金額( ) (円)	23.77	10.97

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第27期第3四半期連結累計期間及び第27期連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため記載しておりません。また、第28期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 平成25年7月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期(当期)純損失金額を算定しております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、当該事業に携わっている主要な関係会社に異動はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における当社グループは、前事業年度の業績赤字からのV字回復を目指しながら、引き続き「顧客参加型企業」の方針に基づいた諸施策を実行しております。

春期「無料きもの着付教室」の新規受講者募集では、会員のお客様1,000名が出演する広告を展開し、教室のカリキュラムを一新したところ、新規受講者数は一昨年並みに回復、この受講者を対象に4月から6月にかけて開催した販売機会での売上高は順調に推移しました。

また、8月に開催したコンテスト「きものプリリアンツ全国大会」では、約500名の会員のお客様がモデルとして出演し、世界最多モデルの着物ファッションショーとしてギネス世界記録に認定されるなど盛況を博しました。併催した販売機会では、1大会あたりの商品取扱高が過去最高額となりました。

さらに、「顧客参加型企業」は進化を続けており、お客様による「日本和装の応援団」が全国27ヵ所で結成されました。9月には「日本和装の応援団」が企画・主催する販売機会イベントを全国で開催、売上高の向上に寄与しました。

販売機会での商品取扱高向上に伴い、連結子会社日本和装クレジット株式会社における、当社グループのお客様に対するショッピングローン事業も好調に推移しました。外部クレジット会社への支払手数料が減少するとともに、6月には大手2銀行から総額17億円の資金調達を実施、9月には総額20億円のコミットメントライン契約による資金調達枠を確保するなど、順調に業容の拡大を進めております。

これらの結果、売上高は4,309百万円（前年同四半期比4.5%増）となりました。

利益面では、8月から9月に展開した、秋期「無料きもの着付教室」の新規受講者募集に係る広告宣伝費を計上したものの、売上原価（着物や帯の縫製に係る費用）や販売費及び一般管理費の抜本的な見直しが功を奏し、営業利益は108百万円（前年同四半期は営業損失267百万円）となりました。

営業外損益では、日本和装クレジット株式会社の運転資金の借入金利息等を29百万円計上、資金調達手数料として支払手数料21百万円を計上したこと等により、経常利益は54百万円（前年同四半期は経常損失306百万円）となりました。

法人税等は、法人税、住民税及び事業税を計上するとともに、法人税等調整額を計上した結果、30百万円（前年同四半期比はマイナス109百万円）を計上しました。

これらの結果、四半期純利益は23百万円（前年同四半期は四半期純損失197百万円）となりました。

なお、当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業を行う単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載を省略しております。

(季節的変動について)

当社グループの主な収益源は、「無料きもの着付教室」の受講者及び修了生を対象とした販売機会において、各契約企業が商品を販売することに対する仲介手数料です。

「無料きもの着付教室」は年2回(春期・秋期)開講しており、春期は第1四半期連結会計期間中に受講者を募集して開講し、受講中となる第2四半期連結会計期間を中心に販売機会を開催して終了します。同じく秋期では、第3四半期連結会計期間中に受講者を募集・開講し、第4四半期連結会計期間を中心に販売機会を開催して終了します。そのため、広告宣伝費を主とする受講者募集に係る経費が第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間に集中して発生し、販売機会による仲介手数料の計上が第2四半期連結会計期間と第4四半期連結会計期間に集中します。

その他、教室の修了生である会員を対象とした販売機会を不定期に開催しておりますが、「無料きもの着付教室」に係る経費及び売上高の計上時期の偏重が大きいことから、各四半期連結会計期間業績に季節的変動があります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。また、新たに生じた事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,000,000
計	33,000,000

(注)平成25年2月26日開催の取締役会決議により、平成25年7月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われておりません。

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,002,000	9,002,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	9,002,000	9,002,000	-	-

(注)普通株式は完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年7月1日	8,911,980	9,002,000	-	459,634	-	336,409

(注)当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株を100株とする株式分割を行っております。

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

なお、平成25年7月1日を効力発生日として普通株式1株につき、100株の割合で株式分割を行うとともに、1単元を100株とする単元株制度を採用しておりますが、株主名簿の記載内容が確認できないため、当該株式分割及び単元株制度による影響は考慮しておりません。

## 【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 90,020	90,020	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	90,020	-	-
総株主の議決権	-	90,020	-

## 【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,396,073	2,022,078
営業未収入金	508,615	395,810
割賦売掛金	1,632,204	3,040,429
たな卸資産	115,369	123,828
その他	565,761	576,524
貸倒引当金	36,515	43,137
流動資産合計	4,181,508	6,115,532
固定資産		
有形固定資産	651,278	694,154
無形固定資産	29,791	23,821
投資その他の資産	579,427	576,491
固定資産合計	1,260,497	1,294,467
資産合計	5,442,006	7,410,000
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	28,972	28,080
短期借入金	1,556,332	2,337,978
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
未払法人税等	-	46,160
前受金	287,317	212,353
営業預り金	11,894	27,334
その他	316,982	852,643
流動負債合計	2,301,498	3,604,550
固定負債		
社債	350,000	250,000
長期借入金	119,212	869,807
その他	19,654	13,827
固定負債合計	488,866	1,133,634
負債合計	2,790,365	4,738,184
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	459,634	459,634
資本剰余金	336,409	336,409
利益剰余金	1,857,478	1,880,406
株主資本合計	2,653,521	2,676,450
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	4,652	7,988
その他の包括利益累計額合計	4,652	7,988
新株予約権	2,771	3,353
純資産合計	2,651,640	2,671,815
負債純資産合計	5,442,006	7,410,000

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	4,124,140	4,309,113
売上原価	659,482	574,871
売上総利益	3,464,658	3,734,242
販売費及び一般管理費	3,732,122	3,625,803
営業利益又は営業損失( )	267,463	108,439
営業外収益		
受取利息	673	373
その他	3,500	2,901
営業外収益合計	4,174	3,274
営業外費用		
支払利息	19,920	29,386
支払手数料	5,444	21,436
社債発行費	10,039	-
その他	7,639	6,751
営業外費用合計	43,044	57,574
経常利益又は経常損失( )	306,333	54,139
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	306,333	54,139
法人税、住民税及び事業税	13,736	15,328
法人税等調整額	122,997	14,925
法人税等合計	109,260	30,253
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	197,072	23,885
四半期純利益又は四半期純損失( )	197,072	23,885

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	197,072	23,885
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	226	3,335
その他の包括利益合計	226	3,335
四半期包括利益	196,845	20,550
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	196,845	20,550

## 【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

債務保証

次の関係会社の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
Nihonwasou(Thailand)Co.,Ltd.	14,079千円	Nihonwasou(Thailand)Co.,Ltd. 15,550千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

当社グループの主な収益源は、「無料きもの着付教室」の受講者及び修了生を対象とした販売機会において、各契約企業が商品を販売することに対する仲介手数料です。

「無料きもの着付教室」は年2回(春期・秋期)開講しており、春期は第1四半期連結会計期間中に受講者を募集して開講し、受講中となる第2四半期連結会計期間を中心に販売機会を開催して終了します。同じく秋期では、第3四半期連結会計期間中に受講者を募集・開講し、第4四半期連結会計期間を中心に販売機会を開催して終了します。そのため、広告宣伝費を主とする受講者募集に係る経費が第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間に集中して発生し、販売機会による仲介手数料の計上が第2四半期連結会計期間と第4四半期連結会計期間に集中します。

その他、教室の修了生である会員を対象とした販売機会を不定期に開催しておりますが、「無料きもの着付教室」に係る経費及び売上高の計上時期の偏重が大きいことから、各四半期連結会計期間業績に季節の変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
減価償却費	67,441千円	64,511千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月23日 定時株主総会	普通株式	90,020	1,000	平成23年12月31日	平成24年3月26日	利益剰余金
平成24年7月13日 取締役会	普通株式	45,010	500	平成24年6月30日	平成24年9月18日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )	21.89円	2.65円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( )(千円)	197,072	23,885
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額( ) (千円)	197,072	23,885
普通株式の期中平均株式数(株)	9,002,000	9,002,000
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

- (注) 1. 当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額を算定しております。
2. 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。また、当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月8日

日本和装ホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 磯俣 克平 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 次男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本和装ホールディングス株式会社の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本和装ホールディングス株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。